



懐は氷河期のまま安定しているが天気の方は暑くなったり寒くなったりしている。このあけ知人の見舞いに行ってきた。前に行った時は車椅子だったものが、もう自分で歩いて、リハビリと言うものはたいたものなのだと感動した。みんな一仕事を終えて次の人生を歩もうとしている時期に、希望や気力に溢れてはいても、身体はガタが来始めて、いろいろな障害に会う。それを乗り越えていくのもまた今まで培ってきた経験や知恵、気力などであるのだろう。

さてその帰り、病人に教えられて、延々と歩き、三ノ輪駅前古い安酒屋へ繰り出した。がらっとガラス戸を引いて、中央のカウンターに座ると、全てが古びて安っぽく、ガタが来つつある中で、大ナベが元気良く火にかかっている。ところどころに近所のジイサン、仕事帰りのオトツツアン達が背中を丸めてうずくまり、指先でガラスの器をつまんで静かに口に運んでいる。肴はまあ、煮込みなど1, 2品。その頭上にこれはまた元気の良すぎるおばさんが「何? そんな声じゃ聞こえないよ!」とバシバシとまくし立てる。「すまんが、ホッピーを。」と、おでんその他のちょっとしたつまみを頼み、ハングラの話などぼそぼそ話しながら、いつしか熱帯に変わり、「山にーや!」などと元気に溢れてきて、入院している人に「さっき聞いた店で楽しく飲んでるよ。」とメールを入れて帰った。

一昨日は秋葉原のこぎれいな蕎麦屋で、少し前、ミンダナオ島と一緒にいった友人と静かに笑って飲んだ。話はしまやっているホームページ用の絵本の新しい旨画。魅力のある優れた男だから、会って、飲んで、別れるまでどこか目的に向かっていると言う気分が抜えずに隙が無い。これはいいことか悪いのか判断がつかない。童話やアイヌの縄巻の話をする

昨日は、もめた話の後で、もめた相手とやっぱり安酒屋へ行って飲む。テーブルをバンバンたたいて怒る人を見つつ、結局、やな酒になってしまって、付き合ったばかりの人たちに悪い思いをさせたな。さてどうしていくかとなんとなく暗い気分を引きずっている。

そんな中、鷹ノ巣山に行って来た。年に一度位は雪の稜線にテントを張ろうと、奥多摩湖畔から登ったのだが雪なんかほとんど無し。その代わり、ピンと張りつめた空の下で富士の足もとから南アルプスまで見事な山々の連なりだ。時折鹿が走り、猟犬は無線のアンテナを首輪につけてあちこちうろろしている。テントの中では二人で結構飲んで、おでんのナベはひっくりかえすは、熱帯がひっくりかえるやらとめっちゃくちゃだったが、外に出ると月が見事に輝き、そんな中を雲取方面にヘッドライトをつけて急ぐカップルがいた。よっぽどおじさん二人は震えながら月を見上げて見送った。翌日、高度差1000m、奥多摩駅への下り。北風が激しくなり、時折風を避けて一杯やりながら身体を温め、あちこち遊びながらゆっくり行く。早く下りすぎたら、また飲み屋が開いてないから困るのだ。ゆっくりと時間が過ぎていきます。